

## 入選

### 七月のごう雨

山口県 高水小学校 5年 荒川 智宏

平成30年7月のごう雨は、ぼくの住むところにも、いろんな被害を残しました。

特におどろいたのは、田んぼだったところに水がたくさん流れていたことです。新しい川ができたのかと思いました。新しい川は、だんだん水が少なくなり、とうとう川は元の位置に流れ始めました。残ったのは、大量のすなや石でした。

石やすなの入った田んぼは日当たりが悪いので、おじいちゃんはいねを植えていませんでした。それでも、いねを植えている田んぼに少し石やすなが入ってきてしまい、いねはたおれてしまいました。いねが実るのか心配です。

ぼくのもうひとりのおじいちゃんは、建せつ業をしています。今回の災害でくずれた山や川をしゅうりしています。おじいちゃんたちは、3週間くらい休みなく仕事をしたそうです。

ぼくは夏休みに、建せつ業の手伝いをしているお母さんといっしょに、毎日事務所に行って勉強をしていました。

ある日、お母さんが道具をとどけに現場に行くというので、お兄ちゃんといっしょに現場に行きました。

山の中の道が、がけくずれで通れなくなっていました。おじいちゃんは、ショベルカーで土や石や木をダンプトラックにのせていました。おじさんとおばあちゃんが土のうを作っていました。

土のうは、黒くて長細かったです。「まくら土のう」というそうです。それをならべて、えん石の代わりにするそうです。

ぼくは、土のうを作る手伝いをしました。黒くて長細いふくろを広げ、その中に土を入れました。シャベルを使って少しずつ入れました。

ふくろの入り口がせまいので、なかなか土が入りませんでした。ふくろをお母さんが持っていてくれました。暑かったので、だんだんあせがでてきましたが、たくさん作りました。作った土のうを、おばあちゃんがかくって、おじさんが運んでいきました。とても重たそうでした。

用意されていた全部のふくろに土を入れるのに、一時間くらいかかり、手の皮がむけそうになりました。でも、かりのえん石がくずれた道ぞいに完成しました。

ぼくは達成感でいっぱいでした。ぼくも災害の復きゅうの手助けをした気分になりました。

ぼくがしたことは、小さなことかもしれませんが。今回の災害でたくさんの人が働いているのを見ました。たくさん機械も活やくしていました。

毎日、山くずれのあとを見ます。早く前みたいな緑いっぱいのすがたにもどってほしいなと思いました。